

掲載号・キーワード・執筆者	内容
<p>その 19 (ニューズレター No.82 2015.9.29)</p> <p>化学物質に着目した環境対策</p> <p>大石京子 (佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター 客員研究員)</p>	<p>広大な泥干潟を擁する有明海沿岸域は多様な生物の生息の場となっています。陸域から流入する汚濁物はこのような干潟の生態系に大きな影響を与えます。したがって、干潟に続く低平地の水環境の保全が重要となります。</p> <p>近年医薬品や化粧品などに含まれる化学物質 (Pharmaceutical and Personal Care Products;PPCPs) が水域から検出されています。現在流通している物質は 2000 種以上といわれていますが、難分解性であることから、下水処理場で処理されず河川へ放出され、主に土粒子に吸着して底泥に蓄積します。これらは極めて微量であることから、実際に何に対してどのような影響を及ぼすのか環境毒性評価が明確にされたものはごくわずかです。しかし、沿岸域の底泥の生態系に長期にわたって影響を及ぼす可能性があります。今後、低平地の水質管理には有機物、窒素、リンといった富栄養化にかかわる物質とともに、化学物質にも注目して干潟の生態系保全や水産資源の確保に取り組む必要があります。</p>
<p>その 20 (ニューズレター No.83 2014.6.23)</p> <p>「阿蘇-4」</p> <p>下山正一 博士 (佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター特命研究員)</p> 	<p>阿蘇-4 は阿蘇カルデラ形成期に生じた 4 大火砕流のうち、4 回目の巨大火砕流の堆積物です。カルデラ周辺には強溶結部がありますが、佐賀平野では非溶結の火砕流堆積物です。阿蘇-4 の新鮮なものは軽石混じり暗灰色ガラス質火山灰であり、風化した場合には白色凝灰質粘土やオレンジ色の“おがくず状ローム”になります。白色凝灰質粘土は八女粘土、オレンジ色の“おがくず状ローム”は鳥栖ロームと呼ばれ、鳥栖ロームが常に上位にあります。ベースサージ層を間に挟む場合、2 つは別々(2 回)の火砕流の堆積物ですが、筑紫野市の露頭で両者を貫く脱ガスパイプが発見されたため、それらの時間差はほとんどないといえます。</p> <p>佐賀低平地における地下調査のためのボーリングでは、阿蘇-4 は約 9 万年前を示すほか、支持層到達の目安となる重要な鍵層とされています。ただし、オリジナルの阿蘇-4 のほかに二次堆積としての阿蘇-4 もあります。これはラハール(泥流)堆積物であり、オリジナルの阿蘇-4 に比べて軟らかいほか、砕屑物(砂礫)を大量に混入し、軽石は細礫状で丸みを帯び、成層しているため、オリジナルな阿蘇-4 との区別は容易です。</p> <p>二次堆積の阿蘇-4 は地層区分としては、阿蘇-4 ではなく三田川層になります。</p>

※執筆者の所属等はその当時のものです。